

**光・量子飛躍フラッグシッププログラム（Q-LEAP）
ステージゲート評価結果（８年目）**

1. 研究開発課題名
2 重に量子雑音を圧搾した量子原子磁力計の開発
2. 研究代表者名（所属機関名・職名は評価時点）
学校法人学習院 学習院大学 理学部物理学科 客員研究員
柴田 康介

3. ステージゲート評価結果（８年目）

○結果

8 年目で研究課題を終了とする

○評点

—：

○総合評価コメント

8 年目ステージゲート目標については、今年度中に、原子スピンと光の両方の量子雑音を圧縮し、世界最高の感度を達成できる見込みが高いと評価できる。

一方で、ステージゲート評価は 9 年目以降の研究体制の継続性についても対象となる点を踏まえると、今後の研究体制の確立が困難な状況を鑑みて、本課題については中止が妥当であると判断する。

残された研究期間では、ステージゲート目標である、ミリメートルの空間分解能と世界最高感度を有する原子磁力計の実現が達成されることを強く期待する。

以上